みなみたま

会 報「みなみたま」第 7 号
発　　行　南多摩同窓会あかね会
発 行 者　石川 和昭
〒192-8562　東京都八王子市明神町 4-20-1
東京都立南多摩中等教育学校内
URL：www.akanekai.org/
Email：mail@akanekai.org

南多摩の夢を乗せて、
箱根路を激走！

南多摩中等教育学校一期生が巣立つ

南多摩同窓会あかね会 会長　石川　和昭(昭和36年卒)

南多摩中等教育学校の全学年が揃った形でスタートしてから早一年が経過しました。南多摩中等教育学校を新たな母校としたいという多くのあかね会員の思いは、中等教育学校生、教職員、保護者からも共感、理解を頂き、これまでと変わらぬ活動が継続出来ています。先ずこのことを喜び関係者の皆様に感謝したいと思います。

中等教育学校の生徒達は、第四高女・南高の良き校風や伝統を受け継ぎ、授業はもとより行事や部活動など文武の両面に主体的に取り組み、大いなる成果を挙げていることを先生方から伺い、卒業生として大変嬉しく、又頼もしく思っています。

去る3月15日、私は中等教育学校第一期生の卒業式に招かれ出席しました。147名が卒業しましたが、その代表の答辞からは、５年間は南多摩高等学校の先輩たちとの協働生活から多くのことを学び、最後の１年は最上級生として教科学習や特別活動に精励し、学校を形あるものにしたという自負が伝わってきました。充実した６年間を支えてくれた多くの人達への感謝の言葉も述べられ、厳かな中にも感動的な卒業式でした。

卒業生として何より嬉しかったのは、一期生全員があかね会に加入してくれたことです。

あかね会は、これからも母校南多摩中等教育学校を支援して参ります。引き続き、会員の皆様のご理解とご協力をお願い致します。

来る５月15日、あかね会総会が八王子ホテルニューグランドで開催されます。母校の現状を知り、旧交を温め、又新たなる交流の場として、多くの皆様のご出席を願っています。

【特集 1】南多摩中等教育学校第１期生の進路

－「難関大学合格者何人？」を超越した進路－

小林 幹彦(昭和45年卒)

驚いた。感心した。明治の時代から平成の今に至るまで、南多摩の卒業生にはいろいろな人がいるものだ。その中のごく一部にしか触れることができないのが残念だが、今回はアメリカのコロラド大学（野生動物保護）に進学する舟橋輝昂(ふなばしてるたか)君と早稲田大学（人間科学部）に進学する足立原美幸(あだちはらみゆき)さんを紹介する。

舟橋 輝昂 君

○ 大学選択の理由は「遊び」

舟橋　輝昂 君

「アメリカの国立公園で思いっ切り遊びたい」、いや失礼、「思いっ切り学びたい」。これが、舟橋君がコロラド大学に進学する理由だ。人生の岐路になる進路決定の源泉は、彼の子供時代にあった。

舟橋家ではまだ幼い彼とその妹さんをたびたびアメリカの大自然の中へ連れて行った。雄大な大自然の中で遊びまわった思い出は今も彼の脳裏に心地よく蘇るという。また、小学校６年生のころ父親の一眼レフカメラを持たせてもらい、カメラを通じて自然を見た。魅力的だった。写真家になろうとさえ考えた。いつしか大自然の中で仕事をしていく夢を描くようになっていた。

○ インタープリター

南多摩中等の３年生のとき、フィールドワークで知床に行った。そこで「インタープリター」という職業に出会った。自然を保護しながらその魅力を人に伝えていく仕事がある。そのために必要なことを学び、研究する学問がある。進路が見えてきた。やりたいことが見えてきた。漠然とした自然への執着が、「自然保護」しかも「人が入ることのできる自然保護」という探究目標へとつながった。彼は全米各地の国立公園の近くに自然保護を学べる大学がないか調べた。そしてコロラド大学に行きついた。具体的な研究テーマは「交通事故から野生動物をいかに守るか」に絞られていった。

○ 1期生になることの不安

彼は南多摩中等教育学校の一期生である。伝統ある南多摩が新しい仕組みの学校に代わるときに入学した。少なからず不安はあったという。しかし、南高生の姿は見ることができた。輝いて見えた。そして何よりもフィールドワークに魅力を感じた。「知床に行きたい」と思った。

○ 「型にはまらなくなった」

はたから見ると南多摩の生徒の生活は忙しそうだ。勉強に縛られていないかと心配になる。しかし彼は「いろいろなことができた」と言う。陸上部では１年生の頃から活躍した。小学生時代から取り組んでいた地域のラグビーも前期課程の３年間は続けた。学校が休みの土日には野鳥の観察会も欠かさなかった。体育祭実行委員長もこなした。学業についても誰もが一目置く。忙しさでクラスメイトに迷惑をかけたこともあったが、様々なことに挑戦できた。

南多摩で、彼は何を学んだのか。一番は、「型にはまらなくなった」ことだと彼は言う。多くの仲間とともに、幅広い知識を得ることの意義を知ったというのだ。小学生の頃はろくに本も読まなかったが、南多摩では100冊プロジェクトなどで読書の機会が飛躍的に増えた。人間関係にも恵まれた。仲間がいた。先生がいた。そして南高生。南高生の先輩たちは本当に優しかった。真剣に伝統を伝えようとしてくれた。フィールドワークでは調べること、さらにその先を探ることの面白さを感じることもできた。

○ コロラド大学

年間100頭もの野生動物が交通事故で命を失う。それを何とか減らしたい。人と自然が相互に関わりあいながら自然を保護する道はあるのか。日本の里山の在り方なども参考にしながら研究を進めたい。研究意欲は相当に高い、「でも、やりたいことの具体的な姿はインタープリターかな」。

英語での生活、勉強は大丈夫か、不安はないか。彼は帰国子女のように英語が堪能なわけではない。しかしサラッと言う。「先生方に課題を出してもらって、取り組んでいる」大学の始まりは８月、「量で解決します！」。まったく大したものだ。「たくましい」の一言に尽きる。

「・・・たくましき南多摩・・・」。

足立原 美幸 さん

○ 早稲田大学が好き

足立原さんは将来広告代理店に関わる仕事をしたいと言う。そのために人間の行動や心理について勉強しようと考えた。そこで早稲田大学の人間科学部に進学することになった。人間の行動や心理について学べる大学は他にもあるが、彼女は早稲田を選んだ。理由は早稲田が好きだから。いや！もしかすると早稲田に入りたいというのが先で人間科学はとってつけた理由かもしれない。失礼。なぜそこまで早稲田大学が好きなのか。雰囲気が好きだ

という。雰囲気とは何か。在野の精神がたくましく、いろいろな人がいて、刺激的なのだ。南多摩に似ているとも。

○ とにかく楽しい南多摩の生活

足立原 美幸 さん

体育祭では応援団長の重責を見事に果たした。前期課程では学級委員会の委員長としても活躍した。学校外ではバレエ、ダンス、地域でのお囃子のお稽古と精力的に取り組む。多彩なのだ。それだけいろいろなことに取り組み、忙しくはないのか、辛くはなかったのかと尋ねた。

「とにかく楽しくて、楽しくて」と当り前の表情で答える。このパワーがありがたい。ただ、前期課程の頃は学校生活が楽し過ぎて、勉強の方はちょっと足りなかったかもしれないと反省の弁もでた。

○ 南多摩が大好き

１期生として南多摩に入るとき不安はなかったのか。まったくなかったとのこと。なぜならば地域のお囃子のお稽古等を通じて、南高生や南高の卒業生をいっぱい知っていたからだ。卒業して何十年も経っているのに南多摩での生活を楽しく語る人もいる。その様子を見て、話を聞いて南多摩に入ること、南高生と一緒に学校生活を送ることに憧れていたからだという。そしてもう一つ、フィールドワークや一期生として新しいものを創造していくことへの期待感があった。それが、不安を、むしろ楽しいものに変えていたからだ。

○ 『人に頼る』大切さ

憧れの南多摩に入学し、楽しくて仕方がない学校生活だったとはいえ自分自身の成長に必要なハードルはもちろんあった。何でも引き受けて、自分一人でやろうとする、だからいろいろなことを押し付けられる。悪い癖だ。しかしその弱点も徐々に克服されていく。仲間がいたからだという。先生方がいたからだという。そして、先輩方、大好きな南高の先輩方がいたからだという。南高生には本当にいろいろなことを教えてもらった。温かく育ててもらった。体育祭の応援団のように、大勢で何かに取り組むと計画通りにいかないことがたくさん出てくる。それにどう対応していくか。どのように解決していくのか。多くの人の助けを借りながら彼女が学んだことは「『人に頼る』大切さ」だった。

○ 早稲田大学

早稲田大学に進めばまたさらにいろいろな人と巡り合える。南多摩で学んだ「『人に頼る』大切さ」を胸に、人と人とのつながりを広げて行こうとする姿が素敵だ。

「・・・うるわしき南多摩・・・」。

新校長就任のご挨拶

南多摩中等教育学校 校長　永森 比人美

平成28年４月 １ 日に校長として着任しました永森比人美と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

本校の教育理念は、「心を拓く、知を極める、体を育む」という教育目標をスローガンに、心と知と体のバランスのとれた人間を育成し、国際社会の様々な分野で活躍するリーダーを育てることです。この教育理念の下、教職員は一丸となって人間力を大切にした教養教育を展開し、「基礎力のある生徒集団」から「突破力のある生徒集団」へと「やりきらせる」という指導上のキーワードを共有して、生徒の夢の実現を応援しています。

人は一人ではくじけそうになり、心が折れてしまうことがあります。そのような時に誰かが傍にいて、励ましてくれることで、心の中に「やる気」や「エネルギー」が湧いてきます。平成28年３月に卒業した南多摩中等教育学校の一期生は、支え合う結束力が強固で、上級学校への受験直前の大晦日には100名近い生徒たちが学校に集まって勉強に励んでいたと伺っています。まさに、「突破力のある生徒集団」へ成長したことを物語っています。一期生は文武両道を貫き、「自己の夢」の実現に向けて、東京大学、東京工業大学、一橋大学、北海道大学、信州大学医学部、また、アメリカのコロラド州立大学他、次世代をリードする教育を展開している研究開発型大学等へ進学を決めて巣立っていきました。

私は、生徒が作成した本校のシンボルマークが大変気に入っています。八王子市の鳥であるオオルリをモチーフに、飛ぶ姿には、南多摩の生徒が世界に飛び立つようにとの願いが込められています。鳥を囲む三角形は、南多摩の教育目標である「心・知・体の調和」を三つの頂点で表しています。オオルリの足には南多摩を象徴するオオクスノキの葉が握られています。南多摩のオオクスノキは、明治41年の開校当初から植えられていました。昭和20年８月２日の八王子空襲で母校は一夜にして焼け野原となり、クスノキも焼け焦げてしまいました。しかし、翌年の春になると若葉を芽吹かせ見事に再生したのです。それ以来、このオオクスノキは、困難に屈せず意思を貫いて生きてきた先輩たちの精神のシンボルとなりました。

このシンボルのごとく、生徒には自己の夢の実現に向けて、心身ともにたくましく育ってほしいと思っています。

同窓会あかね会の皆様には、有形・無形に本校の教育活動に対して多大な御支援をいただいていると伺っています。ありがとうございます。今後も引き続き御支援を頂ければ幸いです。よろしくお願い申し上げます。

南多摩中等教育学校第１期生の進路状況概観

６年間一貫教育の中等教育学校として今春初めての卒業生を出した母校・南多摩ですが、その進路状況を概観してみたいと思います。

はじめに

中等教育学校卒業後の進路は大学だけではありません。しかし、ほとんどの生徒が大学進学を目指しているので、大学の合格状況を中心に話を進めます。

３月23日現在の大学合格状況は下表のようになっています。一見人数が少ないように感じるかも知れません。南多摩中等教育学校は各学年４クラス編成なので、卒業生数は都立の一般的な高等学校（８クラス編成）の半分になります。他の高校と比較するには２倍してみると分かりやすいかもしれません。私立大学に関してはこの表に合格者のいるすべての大学が掲載されているのではありません。

国公立大学

学費が安く、研究環境が整っている国公立大の人気は堅調で、今でも難関となっています。入試科目が私立に比べ多い点でも国公立大の合格者数は卒業生の総合的な学力を示す指標になっていると思われます。国公立大合格者33名を卒業生に占める割合で見ると22．4％です。（南多摩の数値だけを見ても分かりにくいので、参考に近隣の進学校・都立Ｔ高（８クラス）の直近３年間の平均を上げておきます。Ｔ高23．0％）

難関大学

いわゆる難関大学とは何なのか定義するのは難しいのですが、東大、京大、東工大、一橋大、医学部医学科の合格者数を見るという方法もあるようです。この人数は９人となっています（T高14．3人）。私立大については早大、慶大、上智大、理科大の合格者数で見る方法があるようです。この人数は45人となっています（T高90．7人）。

特筆すべきこと

学びたいことが明確で、日本の大学の枠を超え、アメリカのコロラド州立大学に進学する卒業生がいることは特筆すべきかと思います。

また、進学以外に自分の道を選んだ卒業生もいます。当然ながら上記の表には反映されません。例えば、「鼓童」という太鼓によるパフォーマンスのプロ集団に合格した卒業生がいます。ある意味大学入試以上に厳しい選抜をくぐり抜けた強者であるともいえます。１年後、いや数か月後には辞めなければならないかもしれない厳しい世界です。相当な覚悟が必要です。やはり特筆に値すると思います。

集団の力

一人一人の学びの充実は、集団が持っている有意義な人間関係、雰囲気によるところが大きいと思います。母校・南多摩への支援を通じてそこに豊かで文化的・学究的雰囲気を醸成していけたらいいなと思います。それが在校生、そして私たち卒業生自身の充実につながるのではないでしょうか。

小林　幹彦

南多摩中等教育学校第１期生の大学進学一覧表

平成28年度入試　平成28年３月23日時点の大学の現役合格者数の中間報告は以下のとおりです。

●国公立大学

大学名	合格数
東京大学	1
東京工業大学	4
一橋大学	1
山形大学医学部	1
信州大学医学部	1
神戸大学医学部	1
北海道大学	1
東北大学	1
お茶の水女子大学	2
東京外国語大学	1
東京学芸大学	2
東京農工大学	6
横浜国立大学	2
山梨大学	1
京都工芸繊維大学	1
神戸大学	1
国際教養大学	1
首都大学東京	3
都留文科大学	2
合計	33

●主要私立大学

大学名	合格数
早稲田大学	13
慶應義塾大学	9
上智大学	6
東京理科大学	17
明治大学	30
青山学院大学	17
立教大学	23
中央大学	28
法政大学	19
学習院大学	3
日本大学	32
東洋大学	21
駒澤大学	12
専修大学	15
国際基督教大学	1
合計	246

●海外大学

大学名	合格数
米国　コロラド州立大学	1

箱根駅伝を快走した高木登志夫君(平成24年卒)

― 箱根駅伝出場高木登志夫選手と陸上部顧問を務めていた川島先生にインタビュー

足立原 美幸(平成28年卒)

箱根駅伝にて東海大学９区を走り区間３位という成績で、チームにとって大きく貢献した南多摩卒業生高木登志夫選手。箱根駅伝出場高木登志夫選手と当時陸上部の顧問を務めていた川島先生にインタビューした。

インタビューの様子（右側奥が高木君、手前が川島先生）

今年の走りについて「去年も走った９区、チームへの役割や特徴は理解していた。個人としては区間賞を狙っていた為少し悔いは残る。」そんな高木選手が陸上を始めるきっかけとなったのは、小学生の頃見ていた箱根駅伝。それから箱根駅伝を目標に練習に励んだという。そして高校は南多摩高校を選んだ。決め手には当時の陸上部顧問川島先生と、南多摩陸上部のチームの空気の良さがあった。

当時の陸上部について川島先生は「“とことん管理しない”ことを意識していた。南多摩生の考える力は、自分が管理するよりも大きなものを生み出す可能性を秘めているから。」川島先生の指導の元で、高校３年生ついに勝ち取ったインターハイ出場。そこで川島先生は箱根駅伝出場を確信したという。

川島先生

「自分自身や練習を信じられるきっかけになったのではないか。そしてまだ出し切れていない力を自覚したことが本人にとって大きなものだったはずだ。」様々な大学からの招待を断り、「両角監督の元で指導を受けたい」という強い気持ちで東海大学に一般生として入学。監督も一般生である高木選手を歓迎してくれたが、長距離選手だけで70人以上という環境は厳しいものだった。

１、２年では故障もあり、練習量への対応は難しかった。しかしそこで力となったのが川島先生からの「３年からが勝負だぞ！」という言葉だった。その言葉を意識し、練習に励みついに３年生で掴んだ箱根駅伝出場。しかし「去年は緊張してしまい箱根の空気に飲まれてしまった。」悔しい結果となってしまった。リベンジのため１年間で更に力を伸ばし、９区区間３位という大きな結果を残したのだ。

高木登志夫君

今年の箱根駅伝を走る高木君

そんな高木選手がインタビューされる度に言っていたことが「都立出身」という言葉。私立の強豪校出身選手が集まる舞台の中で都立高出身である高木選手の存在は多くの人にとって誇らしいものであったはずだ。

今年ＤｅＮＡランニングクラブへ入団し、マラソンへの道を新たに目指す高木選手。「箱根に出るという目標は、今となっては通過点となった。

箱根から世界へ、と様々な所で言われているが、いつか自分も日の丸を背負いたい。」と強い決意を見せた。今後の活躍にも期待したい。

【特集２】夢がふくらむ「無限の粒」南多摩の部活動

小林　幹彦(昭和45年卒)

南多摩中等教育学校には前期課程（中等１～３年）、17、後期課程（中等４～６年）20（１つは同好会）の部がある。それぞれユニークな活動を行っている。中には東京から関東へ、さらに全国や世界にまで出て活躍している部もある。そうかと思えば地道に趣味の世界を創造している部もある。今回はすべての部を紹介する。

一つ一つの内容は少なくなってしまうが、南多摩の多様性、ユニークさ、そして可能性が伝われば幸いである。

― 前期課程 ―

☆科学部☞

物理・化学・生物・地学の各班に分かれて実験を行っている。活動の成果は「活動報告冊子」にして成果発表会で展示している。

☆合唱部☞

「東京都春のコーラスコンテスト」（東京都合唱連盟主催）で優秀賞を受賞した。保護者をはじめ多くの方の声援に感謝しながら活動している。

☆剣道部☞

格闘技としての激しさの中にも他者を敬い、自分を高めようとする心を大切にしている。自分たちの部活動は自分たちの力で発展させていく意気込みを持っている。

☆硬式テニス部☞

男子２９人、女子２３人の大所帯である。初めてテニスに取り組む生徒も半年後、１年後には試合に参加し、審判もできるくらい成長している。

☆サッカー部☞

武器は「チームワークとパスサッカー」。技術や体力の向上はもちろんのこと、礼儀・取り組み姿勢など精神面の成長にもつなげる活動をしている。

☆女子バスケットボール部☞

活動方針として「部活とともに授業・行事・委員会活動などにきちんと取り組める生徒であること」を掲げている。

☆女子バレーボール部☞

「笑顔炸裂！オクラバレー！」を合言葉に、オクラのように芯が通っていて、粘りのあるバレーを目指している。

☆ソフトボール部☞

全部員の共通項は「ソフトボールが好き」なこと。自分で考え、行動できる集団を目指している。

☆太鼓部☞

一人一人が個性豊かで、しかも全体としての団結力を持つ、将来が楽しみな集団である。

☆卓球部☞

「卓球ができることは当たり前のことではない」ということを忘れずに活動を続けている。

☆男子バスケットボール部☞

常にチームワークを大切にし、「オフェンスでもディフェンスでも攻めるバスケ」を目標にしている。

☆薙刀部☞

前後期一緒に活動して、上級生が下級生を教えながら、互いに上達する取り組みができている。インターハイ出場、さらにはインターハイでの入賞を目標にしている。

☆軟式野球部☞

「学校生活をしっかり送る」「挨拶・返事・言葉遣いを正しく行う」「時間を考えた行動をする」「状況を見て、考えた行動ができるようになる」「練習の目的や方法を考えながら取り組む」「コンディションの考え方や方法を学び、自己の体調管理ができるようになる」この５つの活動方針に沿って日々取り組んでいる。

☆日本文化部☞

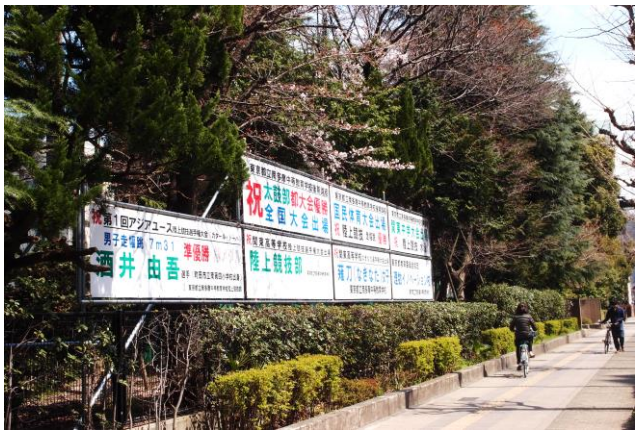
文化祭でお茶会を催している。また、日本舞踊の体験などにも取り組んでいる。

☆美術部☞

継続性のあるテーマを持つ生徒、作品ごとに新しいアイディアを出す生徒、各自がそれぞれの方法を探りながら取り組んでいる。

☆陸上競技部☞

南多摩高校から引き継がれた「夢へチャレンジ」の気持ちを胸に、全国の舞台を目指している。



校門横に並ぶ部活動の活躍を示すボード

― 後期課程 ―

☆イラストクリエイト部☞
「和気藹藹」という言葉がぴったりの活動となっている。和やかな雰囲気の中でお互いに刺激し合い、新たな作品を生み出している。

☆演劇部☞
昨年奨励賞を受賞した地区大会や多摩北地区クリスマス公演などを目標に、少人数ながら仲良く協力して活動している。

☆科学部☞
科学の祭典での発表テーマは「クゲヌマラン個体発生群の群落構造と動態」だった。個人研究や「生物オリンピック」への挑戦にも取り組んでいる。

☆剣道部☞
日々精進を重ね、着実に力をつけてきた。成果も現れ始めた。

☆硬式野球部☞
甲子園出場を目指して日々努力している。

☆サッカー部☞
都大会出場を目指し一人一人がチームに貢献し、全員が戦える集団を目指している。

☆茶道／日本文化部☞
茶道や書道を中心に、いろいろな日本文化に目を向けて活動している。

☆女子硬式テニス部☞
都立対抗戦５回戦進出、新人戦４回戦進出、都立中高一貫校大会準優勝などの成果を上げているが、まだまだ伸びしろがあると考え取り組んでいる。

☆女子バスケットボール部☞
「戦績よりも価値のある活動ができた一期生」のあとを継ぎ、明るく楽しく一所懸命な活動をしている。

☆女子バレーボール部☞
「日々の生活から当り前のことを確実に」「いろいろなことに本気で全力で立ち向かう」「一つのことを最後まで諦めずやり抜く」姿勢を持ち、たくさんの人に愛されるチームを目指している。

☆水泳部☞
来年の夏の大会でそれぞれのベストを出すことを目標にしている。みんなで課題を克服していこうと取り組んでいる。

☆ソフトボール部☞
集団スポーツの特性、チームワークの大切さを生かし、社会性を培うことを第一目標に掲げている。理論的に自己を分析し、時間を有効に使う「頭を使ったソフトボール」を心がけている。

☆太鼓部☞
優勝を勝ち取った都大会での審査員の評価に「太鼓をたたいていない人もたたいているように見えた。完成度が高く、文句のつけようがない。総合芸術として見事だった。」とあった。南多摩の登場で会場の空気が一変したのも日々の活動を見れば頷ける。

☆卓球部☞
一つでも多く勝つことを目標に、生徒が自らメニューを考え切磋琢磨して練習を重ねている。卓球ができることへの感謝と日々の生活との両立を念頭に置いて活動している。

☆男子硬式テニス部☞
少人数だが先輩の記録を塗り替えることを目標に、前向きに活動している。

☆男子バスケットボール部☞
一人一人が意欲的に練習に取り組み、切磋琢磨しあいながら日々成長していく活動を進めている。

☆薙刀同好会☞
関東大会、インターハイ出場を目標にしている。大会成績だけではなく学業や日常生活まで意識を高くもって活動している。

☆美術部☞
文化祭の門は美術部が制作した。全日本学生美術展では入選・佳作など受賞した。八王子市北野児童館の看板も美術部生徒の作品だ。

☆南多摩フィルハーモニー部（前後期合同活動）☞
「オーケストラは社会の縮図」一人一人が自分の役割を伸びやかに果たしながら、全体として調和していくことを目指している。

☆陸上競技部☞
それぞれの種目は個人で戦うことが多いのだが、南多摩はチーム全体で戦っている。アジアユース銀メダル、国体優勝、関東大会への出場などもチームの成果と考えている。

こうしてたくさんの部活動を並べると、ただの羅列に見えるかもしれない。しかし、少し目を閉じてあの南多摩のキャンパスを想像してみよう。太陽、雲、風、木々、校舎、グラウンド、体育館、プール、図書室、教室、机、黒板、そこで夢を追う生徒たち。私には様々な夢が広がっていく様子に見える。南多摩中等教育学校の愛唱歌「無限の粒」（昭和38年卒の郡司博さん作詞・作曲）にこうある。「・・・どうかどうか　幼き夢が遠く未来にとどくまで・・・」「・・・独りだけじゃないよ　ぼくらは無限の粒だから」。卒業生の南多摩への思いが、部活動の中に見えてくる。

会員通信

南高の想い出

相馬　恵　平成２年卒

気が付けば南高を平成２年に卒業して、四半世紀を超える年月が経ちました。私の在校中、南高は創立80年を迎えましたが、現在はとうに100周年を超え、新しい南多摩となってさらに110年、120年と歴史を刻んで行くのだと思うと、卒業生の一人として誇らしい気持ちになります。

６年前、卒業から20年の節目に、学年全体での同窓会がありました。20代の頃はまだ友達同士集まることもありましたが、30代になり皆それぞれ子育てに仕事に忙しく、なかなか会うことができない時期になっていました。しかし久しぶりに会う南高の友達、それは友達というより身内に近いくらいの感覚であり、何とも言えぬ感動を味わいました。

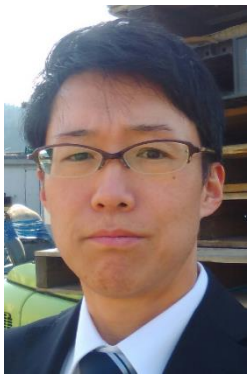
そんな南高の友達を育んでくれた一つに、先生方の存在があります。私の担任の先生は、南高の先生は皆仲が良い、それは近くに美味しい飲み屋が沢山あるからだよ、と冗談交じりに教えてくれました。先生方がいつも優しく、時には厳しく真剣に生徒に接して下さったことを、在校中も感じていましたが、先生方のそういう和やかな関係が、生徒を取り巻く環境の一つとなって生徒にも影響し、南高の友達は皆心優しく、伸び伸びとした性格の子ばかり育ったというように感じます。

次は３０年目の同窓会でしょうか、またいつか南高の友達と再会することを思うだけで、心が躍りだします。高校３年間机を並べた友達は、まさに「一生の友達」です。たった３年間ですが、10代の３年間は何か特別なのでしょう。たとえ会えない時期が続いても、再会すればすぐにお互い当時のままの関係に戻ります。このような関係が一生続くのですから、友達って本当に有り難いものです。

友達がいて、恩師がいて、学び、楽しみ、寄り道をして、確実に成長しながら皆卒業して行きます。これからもこの南多摩から、素晴らしい人材が巣立っていくのを楽しみに思います。私も、元気な新しい南多摩の後輩たちに負けぬように、誰かの役に立つために、自分なりに頑張っていきたいと思っています。

八王子に帰って来ました

都田 英治 昭和63年卒



母校と職場の距離は徒歩で数分。郵便局に用事があるとき、必ず、その校門前を通過しなければなりません。

わりと最近どこの学校でも見かける横長の大看板。「祝・△△大会優勝」。こういうのを見ると大変、元気が出ます。おお頑張っているなー、と暖かな眼差しで見ている私。これからもっと、校舎門柱を一周するぐらいの勢いで看板が増えるといいですね。

長らく埼玉県から都心に勤務し、地元に戻ることは絶対ないと思っていた３年前。支店統廃合で八王子に異動。最後？は地元で頑張れ、ということで帰ってまいりました。

20代後半から約20年間、地元八王子とは完全に疎遠状態。地元川口町へ帰るには圏央道を使うから市街走らず。久しぶりに帰って来て、いや、驚きました。こんなに変化しているなんて。八王子じゃないみたいです。駅前の高層マンション、あり得ない。そもそも南口の景色が、八王子ではない。こんなに綺麗だったかな・・。みなみ野には住宅地、大丸跡地は大型マンション、駅直結のなんとかホール、なんか違和感ある。ひよどり山トンネルとか、どうなっているの？みたいな感じです。高校時代に通院していた鈴木眼科の受付嬢がすごい可愛くて（当時）、また会えるかなと思って行ったら空地。どこかに移転したのかもしれませんが、懐かしい思い出です。

仕事では母校出身の方と時々、出会います。３年間で６～７人ぐらいでしょうか。都田という名前で呼んでもらえず、なぜか「ナンタマ」と呼ばれます（笑）。言いやすいのかも。火災保険のお客様（大和田町）が、ある合唱団に参加されていて、一緒に参加している女性の皆さんも南多摩の出身だよって、おっしゃっていました。相模原市にお住まいの、自動車保険のお客様は、奥様が南多摩のご卒業。結婚して40年以上、想い出を語る機会が無く、一つ一つの記憶を大切にしながら懐かしく、当時のことを語られていました。このように、どこでどう繋がるか、わかりません。毎日失礼の無いよう全てのお客様に対して、気を引き締め、皆様にご安心していただけるよう、感謝の気持ちを忘れずに保険業務に励んでいます。

平成25年度卒業生同窓会

房枝 杜人 平成26年卒

2015年４月、私は、南高の友人二人から突然連絡をもらいました。それは同窓会の企画をやらないかという誘いでした。「やろう！」即答でした。それから各クラスから数人を誘い９人で同窓会を企画することを決め、夏までには会場の確保や人数の把握なども終わり徐々に企画も形になっていきました。

夏が過ぎると、当日のタイムテーブルを決め始め、実際に同窓会中何をやるかという話し合いが始まりました。月に一度、予定を合わせ行った話し合いは、回を重ねるごとに同窓会が形になっていき、さらに当日こんなことをしてみてはどうかという楽しい提案もたくさん上がり正直この話し合いの時間も私は楽しかったです。

高校時代イベントがあるたびに友人たちと校舎内のオープンスペースで話し合った日々が戻ってきたかのようでとても懐かしく感じていました。それから準備も着々と進み、2016年１月９日、私たち平成25年度南高卒業生は成人式を迎えることを期に再び集まりました。三年間私たちの学年を受け持ってくださった担任の先生方も参加してくださいました。制服姿のイメージが強い友人たちがスーツやドレス姿で会場に入ってきた時、二年間の時間の流れとともに当時の仲間たちがそれぞれ新たなステージで成長を遂げていることを感じました。また同窓会中は南多摩生が持つ思いやりと気づきの力を感じられる印象的な場面もありました。

二年間という時間を経て一人一人が成長を遂げた姿と二年前と変わらない南多摩生らしい温かく優しい雰囲気を感じ、そんな仲間を与えてくれた南多摩高校に感謝するとともに誇りに思いました。

卒業式以来の全体写真。
（全員が笑顔で、見るだけで楽しかった時間が蘇る思い出の一枚となりました。）

同窓会は、とても楽しく素晴らしい時間になったと思います。そして最後に、今回企画を最初に発案してくれたS君の言葉を借りますが、私たち南高卒業生が集まればそこがきっと南多摩高校になると思います。

必ずまた集まりましょう。

新入会員紹介

「南多摩」での思い出

松村　遼 平成28年卒

私の南多摩の思い出は太鼓部での活動です。中等一年生の時、私が南多摩高校百周年記念イベントにおける太鼓演奏の有志として活動していたのが始まりでした。翌年部活への昇格の決定後、当時の有志メンバーの中からとことん太鼓好きな７人が残り本格的な部活動となりました。後にもう一人が加わって、太鼓部一期生は８人となったのですが、彼らと過ごした５年間は大切な宝物です。大好きな太鼓に没頭し、わいわいと賑やかな部活動を行い、時にぶつかって、でもまた笑顔になって、支えて支えられて前に進んで。それでいて、なかなか８人全員揃わない。そんな個性豊かで自分勝手な８人。卒業後それぞれの進路や居場所はバラバラになります。でも寂しくありません。それは、どんなに離れていてもつながっていると感じられるからです。数年後何とか８人揃って、「俺は今これやってる」「私はこれ研究してる」「みんな凄いな」とか騒ぎながらまた太鼓を叩けたらいいな、なんて一人で勝手に想像しながら自分の将来の夢へ歩んでいきたいです。

南多摩への思い（合唱祭）

栗原 綾乃 平成28年卒

入学して間もない１年生の６月、まだほとんど小学生のような私にとって高校生の合唱はとても衝撃的でした。いつかあんな合唱をしたい！と憧れ続け、後期からは実行委員会にも所属し、運営側としてもクラスの一員としても６年間合唱祭を思いきり満喫してきました。

合唱祭前になると学校中が歌声で一杯になります。朝も昼も放課後も歌って、歌って、HRでは毎日合唱の連絡ばかり。「練習来て」とみんなの前でいうのはいつもドキドキで、嫌だなと思われてしまわないか心配でした。でも、どうしても優勝したくて、１人１人声をかけたり、合唱祭だよりを出してみたり、毎日毎日、曲の解釈や表現、練習を考えて、特に最後の合唱祭はこれ以上ないくらいに全力を出しました。

他のクラスが自分たちよりずっと上手く感じてハラハラしたり、思うように練習が進まなくてヤキモキしたり、苦しいことも多いけれど、やっぱり私は合唱祭が大好きです。みんなでハモったときのうれしくて、楽しくて、心地良い感じが大好きです。

これからもこの伝統がずっと続いていくことを願います。６年間ありがとうございました。

離任にあたって

南多摩に思うこと

押尾　勲　前 南多摩中等教育学校長

平成24年４月１日に着任してから、あっと言う間に４年間が経ちました。小林幹彦前校長から南多摩高校と南多摩中等教育学校を「よろしく！！」と頼まれ、皆様のご期待を裏切らないよう夢中で走り抜けたというのが実感です。教員生活は35年間でしたが、南多摩の４年間は濃かったです。

私は、自宅に帰るために５つの公共交通機関を利用していましたが、その乗り換えに耐えるエネルギーだけは残して帰っていました。エネルギーを使う学校でしたが、多趣味なので、１日趣味に没頭すると心身ともにリフレッシュし、月曜日は元気に学校に行けました。

私は、南多摩高校の生徒と修学旅行で沖縄に２度行きましたが、現地の人からは、生徒達の振る舞いを見て、「日本の宝ですね。」と必ず言われました。人間力が南多摩は育つのだとつくづく思いました。何事にも真面目に一所懸命取り組む気質と男女関わらず生徒の仲が大変によいのは、長い南高の伝統であるように思います。南高の伝統が包むようにして生徒を育み人間力を高めているように感じます。

話は変わりますが、中等教育学校では、毎月１回から２回、朝礼があります。たいていは「虫の話」、「哲学や長編小説の話」、「時事的話」で、生徒を煙に巻いていました。題材はまちまちでしたが、私の話はリーダーに求める資質に関する内容で、一本筋を通したつもりです。どの程度理解してくれたかはこれからの成長具合でわかります。リーダーは、人の気持ちがわかることが大切な資質の一つだと思います。平成26年度に行った南多摩高校閉校式典で、中等教育学校の代表生徒が、南高の良き伝統を引き継ぎますと宣言していました。卒業生の気持ちを安心させる挨拶であったと思います。南多摩の伝統を引き継ぎ、中等教育学校の味を出しつつ、家族的雰囲気を醸しだす南多摩が久しく続いてゆくものと確信しました。

美しく逞しき南多摩

吉田　寿美　前 南多摩中等教育学校副校長

南多摩高等学校で４年間、引き続き南多摩中等教育学校で１年間の計５年間、副校長を務めました。あっという間の５年間であり、高等学校から中等教育学校へと引き継ぐ５年間でもありました。高等学校そして中等教育学校のどちらの生徒の学校生活も実りあるものにしたいとの思いで、考え行動してきた毎日でもありました。

平成27年３月の高等学校最後の卒業式と閉校式典、そして平成28年３月の中等教育学校第一期生の卒業式は、両校の節目となる行事でした。晴れやかな顔で本校を旅立つ生徒の表情が、南多摩の学校生活に満足していることを伝えていました。心から良かったとしみじみ思いました。

高等学校では、高等学校と中等教育学校の連携に力を注ぎました。また、閉校記念誌作成のために、八王子市の郷土資料館に出向いたり、関係者にお会いしてお話をうかがったりなど原稿を編集する中で、南多摩の伝統の重みや、昔から地域の方々に愛されている学校であることを実感しました。だからこそ、ますます中等教育学校を発展させなければという思いも強くなりました。

中等教育学校では、６年間の生徒の成長の変化を目の当たりにしました。人生の土台をつくる中・高校生時代の生徒を育成する喜びと責任感をひしひしと感じました。

南多摩の５年間を支えてくださったのは、賢くて温かい南多摩の校風でした。あかね会をはじめ、生徒、保護者、そして教職員の方々の賢くて温かい支えに、どれほど励まされたことか。

さらに南多摩の卒業生の方々からは、閉校記念碑の言葉である「美しく逞しき南多摩」の雰囲気が伝わってきました。「美しさ」だけでもなく「逞しさ」だけでもなく両面を兼ね備えるのが「南多摩」です。これからも「美しく逞しき南多摩生」が、南多摩から次々と羽ばたいていくことと思います。これからの南多摩に期待しています。

南多摩への思いは尽きません。

皆様には、大変お世話になりました。

これからも、南多摩を応援しています。

今後のあかね会と同窓会活動・母校支援について

◆平成27年度 あかね会総会 開催

５月17日、京王八王子駅前のホテル「ザ・ビー八王子」において、49名が出席して開催されました。

第１部の定例総会は、石川和昭会長の挨拶に始まり、26年度事業・決算報告・会計監査報告に続いて27年度の事業計画・予算案が提案され、満場一致で承認されました。また、３月に閉校した南多摩高校と、６年前に母校を母体校として開校した南多摩中等教育学校の両校を母校とするあかね会規約の改正が行われました。同窓会の名称は「南多摩同窓会あかね会」に変更され、次年度に南多摩中等教育学校第１回卒業生を受け入れる体制が作られました。

総会での議案審議

役員改正では、長年副会長を務めてきた半澤邦彦氏（昭和37年卒）に代わり、新たに小林幹彦氏（昭和45年卒）が副会長に就任しました。小林氏は８年前の母校100周年のとき、第20代校長として在任しました。

石川会長からは、27年３月には南多摩高校が閉校となり、閉校記念式典、「南多摩」の継承を祝う会を開催し、数多くの同窓生の参加を得た。同窓会は会員の親睦と母校の支援を積極的に行ってきたが、近年、新入会員が160名と半減している。中等生が入会しやすい環境づくり、新しい風を取り込んでいく努力をしたいと挨拶がありました。

第２部の講演会は、福島雪男氏（昭和35年卒）により、「アメリカ合衆国横断ドライブの旅」と題して、スライドや映像を交えた内容となりました。旅でのハプニング、アメリカ大陸ならではの風景に出会えたことなどが映し出され、写真とともに紹介されました。福島氏が強調されたのは、齢をとっても生活していくために大切なことは、「病気をしないで『気力・体力・知力』を持ち続けること」とのことです。

第3部の懇親会は、中村晋也氏（昭和53年卒）と川崎恵美子氏（昭和51年卒）の司会で始まり、黒須隆一顧問（昭和35年卒）の乾杯の発声で懇親に入りました。南高最後の卒業生であるフレッシュな新会員や、今回初参加の方々のコメントが次々に紹介されました。アトラクションは、会員が自慢ののどを競うカラオケ大会になり、終始和やかな雰囲気のもと、会員同士の懇親がはかられました。最後は音楽家・丸山久氏（昭和44年卒）の指揮で校歌を合唱して解散しました。

◆高尾山納涼会の開催

樹齢500年を越す杉並木が、夏の涼しい日陰を作り、参拝者を見守ってきた高尾山で、恒例の納涼会が8月23日に薬王院で開催されました。

あかね会では、毎年夏に高尾山の涼を求めて精進料理「高尾膳」を会食しながら、会員同士の親睦を図っています。今回は23名（一般会員7名）と数少ないメンバーでしたが、連日の猛暑が続く中で、一時の涼が得られ、参加者の顔は清々しさに溢れていました。

納涼会を終え、参加者全員で記念写真

なお、納涼会の前に、第２回常任委員会が開催され、母校文化祭「南魂祭」の参加などが議論されました。

石川会長から、８日連続の猛暑日の中にあり、台風15号・16号の影響下でご参加いただいたことへの感謝と、納涼会の一般会員の参加は今年で５回目となり、定着しつつあり、会員相互の親睦や交流を積極的に図っていきたい、などの話がありました。

◆母校文化祭『南魂祭』に作品出展

南多摩中等教育学校の文化祭『第107回南魂祭』が、９月５日（土）～６日（日）に母校で開催され、あかね会は、西館玄関から入って直ぐの２階展示会場で、「南魂祭」に参加しました。

今回で６回目となる「卒業生作品展」は、例年より出展数は少なめでしたが、同窓生による書道、絵画、陶芸、写真、能面、織物、アクセサリー、出版物などの作品が多数展示されました。その中で、４月に太鼓部が初出場

を果たした「成田太鼓祭」の染谷英夫さん（昭和31年卒）出展の写真が、参観者の目を引きました。

南魂祭で展示された卒業生の作品

また、昨年好評だった中田君代さん（昭和37年卒）が講師になった「折り紙教室」を開催し、中等生や同窓生たちが一生懸命に挑戦していました。

恒例の「あかね会クイズ」も、前期課程の中等生や父兄と共に参加した小さなお子さんで賑わいました。

◆先輩に学ぶ開催

11月11日、中等５年生の約150名に対し、黒須隆一顧問（昭和35年卒）から「失敗から何を学ぶか」のテーマで、講演会が開かれました。

「失敗をしない人はいない。失敗をどのように生かすかということが大切である。失敗を恐れて挑戦をしないのは残念である。挑戦しよう」という内容でした。母校「南多摩」に関わり60年、その間の数々の挑戦を熱く語っていただきました。生徒は良くメモを取り熱心に聴き、講演後は６～７名の生徒から質問が出ました。

◆あかね会新年会開催

平成28年1月16日、南多摩同窓会あかね会の新年会が、母校近くの八王子ホテルニューグランドにおいて、38名が出席して開催されました。

石川和昭会長から今年の新年の抱負が語られ、南高OBの高木登志夫君（東海大学４年）が箱根駅伝で９区を好走し、正月のテレビを賑わせたことが語られました。押尾勲名誉会長（校長）からは、母校部活の華々しい活躍が紹介されました。昨年（平成27年）10月、和歌山国民体育大会の陸上競技「走幅跳」で、中４男子が７ｍ50㎝で優勝した。11月には太鼓部・後期生が立川市で開催された東京都高校文化祭郷土芸能部門で優勝し、今年夏に広島県で開催される全国大会に東京代表で出場する。南多摩フィルハーモニー部・後期生は千葉市で開催された日本学校合奏コンクールで好成績を残し、全国大会出場の切符を獲得したことなど。正月早々多くのうれしい話が語られました。

新年会の前に行われた常任委員会では、これまでの活動行事の報告、新年度の広報発行計画が提案され、引き続き小林幹彦副会長の司会進行で、28年の新年会が始まりました。当日は、校長、副校長、PTA会長が参加されました。

来賓の柿沼健一PTA会長からは、母校生徒と同窓会あかね会の強い絆にあやかり、PTAもOB会を強化していきたい、などが語られました。

幅広い年代の卒業生が集い、一年の門出を寿ぐ

その後、大島富子相談役の乾杯の発声で懇談に入り、平成卒コンビの歌手・伊達めぐみさん（平成３年卒）、入沢修自さん（平成６年卒）が各テーブルをまわり全員に新春インタビューを試みました。伊達さんからは今年発売予定の新曲披露もあり、最後は音楽家・丸山久さん（昭和44年卒）の指揮で、童謡や校歌を皆で声高らかに斉唱しました。終始、新春の和やかさを残した新年会でした。

◆校章台を寄贈

同窓会あかね会では、母校の体育館に飾られていた旧「南多摩高校」の校章を長く記念として留めるため、平成28年３月に校章台を寄贈することとしました。

南高の校章前で自習する生徒

校章は「南高」と金色文字で書かれたもので、直径が1．5ｍあります。校章台は、母校の事務室前（西棟１階）に飾られ、第四高女、南多摩高校と100年以上にわたる歴史と伝統を引き継いだ南多摩中等教育学校を見守り続けることと思います。

同窓会活動の参加者募集

◆高尾山納涼会の参加者募集（8/20(土)）

夏に下界の暑さを逃れ、高尾山薬王院の「精進料理」を食べて夏バテを解消しませんか。

高尾山薬王院の大山隆玄貫主（昭和28年卒）はあかね会の同窓生です。元気な方は、早めに高尾山頂まで登ってから参加もできます。７月にあかね会ホームページに募集要項を掲載します。会費は5,500円です。参加をご希望の方は下記あてにご連絡ください。

⇒連絡先　　川崎恵美子　【電話】090-3577- 9487

◆母校文化祭への出品者募集（9/10・11）

母校の創立100周年を機会に、あかね会は母校の文化祭「南魂祭」に、卒業生の作品展などを中心に参加しています。日頃、書道、絵画、写真、陶芸、その他、趣味等で作品を制作されている方は、この機会にぜひご出品をお願いします。９月10日（土）・11日（日）です。

また、学校を久々に訪れてみたい方も歓迎します。あかね会では、展示室で同窓生をお待ちしています。

⇒連絡先　　田中　ミホ　【電話】042-646-1155

◆あかね会活動に参加してみませんか

あかね会活動は、常任委員会を中心に運営していますが、下記の年次は常任委員が不在です。同期会やクラス会を開催している年次の幹事さんにお願いです。

各年次から2名程度を常任委員としてご推薦ください。会議は年に4回程度です。同窓会の組織強化、年次を越えた会員相互の親睦・交流を深めるため、ぜひご協力をお願いします。ご連絡をお待ちしています。

不在年次:昭和40～43　47　48　50　54～56　58～62
　　平成1　4　6～27

⇒連絡先　　溝口　猛【電話】090-6489-5939

◆同期会・クラス会情報をお寄せください

ホームページ「南多摩コミュニティ」が公開されて、8年を迎えます。あかね会会員の相互交流や、母校に思いをつなぐものとして、ホームページを有効に活用していただきたいと考えています。

同期会・クラス会を予定する幹事の方々は、ぜひホームページを活用してください。同期会の案内などの情報をお寄せいただければ、ホームページへの掲載をいたします。また、同窓会に関する情報等の提供もできるかと思います。

⇒ホームページ連絡用メールアドレス:hp@akanekai.org

◆平成27年度のあかね会の活動紹介

平成27年度の南多摩同窓会あかね会活動は、5月の総会のあと、役員会、常任委員会等を中心に協議して、活動を進めています。27年度の常任委員会の開催状況は、下表のとおりです。

平成 27 年度　あかね会常任委員会開催状況

回	議　　題
第１回 6月13日	○総会懇親会の反省 ○納涼会の計画 ○南魂祭参加の計画
第２回 8月22日	○南魂祭参加の計画 ○「先輩に学ぶ」の計画 ○納涼会の実施
第３回 1月16日	○同窓会あかね会会報の発行計画 ○総会の計画・準備 ○新年会の実施
第４回 3月26日	○平成27年度の事業の執行状況・決算見込み ○会報編集の進捗状況 ○総会の計画・準備

◆あかね会広報委員募集

広報委員は、同窓会会報「みなみたま」の作成や、ホームページ「南多摩コミュニティ」の運営など、母校と同窓生をつなぐ重要な役割を担っています。

現在、これらの作業は同窓会の役員が分担して行っていますが、２万名に及ぶ会員相互の情報交換、母校の情報発信、会員情報の管理、記事の取材などには、幅広い皆さんの協力が必要です。

特に、会報誌の編集、ホームページの更新には、パソコンの知識をもった人や、記事を執筆する能力をお持ちの方の協力が不可欠です。

このため、こうした作業にご協力いただける広報委員を募集します。ご協力いただける方は、下記あてにご連絡ください。

⇒連絡用メールアドレス：koho@akanekai.org
　連絡先：南多摩同窓会あかね会・広報委員会
　連絡内容：氏名、卒業年・組、電話番号、メールアドレス、ご協力いただける内容

学校法人片柳学園
東京工科大学
【昭和35年卒】
学長 軽部征夫　理事 黒須隆一
＜八王子キャンパス＞
〒192-0982 東京都八王子市片倉町1404-1
TEL.042-637-2111(代)
＜蒲田キャンパス＞
〒144-8535 東京都大田区西蒲田5-23-22
TEL.03-6424-2111(代)
www.teu.ac.jp
併設校:日本工学院専門学校／日本工学院八王子専門学校

Sanhyosha
刷新ing
お任せ下さい！印刷のすべて。
取締役副社長　野口 冨巳子（昭和35年卒）
有限会社 三共社
〒192-0041 東京都八王子市中野上町2-29-1
TEL.(042) 625-8325 FAX.(042) 625-8369
http://www.san-p.co.jp

医療法人社団 大島会
大島耳鼻咽喉科クリニック
院長 大島 清史／大島 富子(昭和25年卒)
〒192-0046 八王子市明神町 4-5-9
TEL：042-642-8012
http：//www.oshima-ent.com/

皮膚科・アレルギー科
城山右田医院
院長　村田 恭子／右田 貞子(昭和26年卒)
〒252-0105 神奈川県相模原市緑区久保沢 1-2-7
TEL:042-782-2120

明るい未来を拓く、元気な子供達を育てます。
社会福祉法人　相友会
浅川 長房西 諏訪
保育園
諏訪 のぞみ乳児園
理事長　村松 一恵（昭和28年卒）
法人本部〒193-0812 八王子市諏訪町5 TEL：042-651-4555

開かれた寺をめざして！
千人同心ゆかりの寺
宗教法人 曹洞宗興岳寺
寺院住職　土井 俊玄(旧名 晃) 昭和29年卒
〒193-0835 東京都八王子市千人町1-2-8
電話:042-661-5268　FAX:042-661-5357

伊藤税務会計事務所
税理士 伊藤　仁教
伊藤　幸子（昭和32年卒）
〒192-0045 八王子市大和田町3－6－21
TEL:(042)642-2719　FAX:(042)642-5034

医療法人社団　三真会
勝田医院
泌尿器科・内科・外科
院長　勝田真行／勝田三枝子(旧姓石森 昭和33年卒)
〒193-0803 八王子市楢原町 556—1
電話:042(625)2727　FAX：042(625)2700
〔休診日:日・祝、木・土の午後〕

NPO法人
八王子・台湾友好交流協会
理事長　黒須隆一
（昭和35年卒）
〒192-0046 八王子市明神町4-1-2ストーク八王子205号
TEL・FAX 042-644-5580
携帯 090-6150-4965

《保育方針》心身共に丈夫な身体づくりと、
夢と希望を持った子供に育てよう。
社会福祉法人愛和会 多賀保育園
園長　和田 百合子(昭和35年卒)
〒192-0051 八王子市元本郷町3－6－18
電話:042-622-2054　FAX:042-622-2054

NAKANO
学校法人 八王子中村学園
なかの幼稚園
なかの幼稚園　そこは
子どもの世界です。
〒192-0041 八王子市中野上町 5-32-13
TEL:042-622-3001・FAX:042-624-3103
http：//www.nakano-kd.ed.jp/
理事長　中村 健(昭和46年卒)

西八王子駅北口徒歩2分　白木に囲まれた世界
レンタルギャラリー トラウト
代表　増田 克哉（昭和51年卒）
193-0835 八王子市千人町2－20－3
電 話:042－668－0123
http://www. g-trout. net

お住まいに健康と団欒をお届けする
ミャンマーチークフローリングと周辺造作材専門店

ミャンマーチーク販売株式会社

代表取締役 臼井 成美
臼井 実千恵（旧姓岡村 昭和46年卒）

〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-8-4 BABAビル
TEL：03-5333-3055 FAX：03-5333-3077
http://www.myanmar.co.jp

不動産業（賃貸マンション・貸倉庫）
石田倉庫のアートな2日間

石田産業有限会社

代表取締役社長 石田 高章
常務取締役 石田 菊江（昭和27年卒）

〒190-0013 東京都立川市富士見町 2-32-27 石田産業ビル 2F
TEL：**042-522-2406** FAX；：042-525-0483

心のふるさと
祈りのお山

高尾山

薬王院 山主 大山 隆玄（昭和28年卒）
http://www.takaosan.or.jp

有限会社 保寿産業

代表取締役 小川 禎子
（旧姓 岸 昭和 31 年卒）

〒190-0023 立川市柴崎町1-9-32

医療法人社団 真歯会

常盤矯正歯科医院

理事長：常盤 肇 理事：常盤 正臣（昭和 31 年卒）

〒160-0022 東京都新宿区新宿 4-3-22 安藤ビル 5F
電話：03-5363-1182 FAX：03-5363-1173
フリーダイヤル：0120-755-182
http://www.tokiwaoc.com

病院、施設の給食品専門問屋

増田屋

株式会社 増田禎司商店

代表取締役 増田太郎／増田敦子（昭和34年卒）

〒193-0801 八王子市川口町 1415
TEL：042-654-2222 FAX：042-654-5049
http://www.masudaya.1965.com

高級オリジナルニット
色彩の魔術師

齋藤都世子作品ルーム

◇ 八王子・浅野サロン ◇

きもの浅野
浅野 常子（昭和34年卒）
〒192-0904 八王子市子安町 3-32-10-106
☎・FAX：042(646)9833／**090-1422-1192**

TKC. KFS 推進事務所

加藤 晃 税理士事務所

●決算業務（法人税・所得税・消費税）●相続税・贈与税申告

税理士・所長 加藤 晃（昭和38年卒）

〒192-0032 東京都八王子市石川町 733-4
TEL：042-644-1771 FAX：042-645-7372
http://www.tkcnf.com/ntk/

一級建築士事務所

株式会社 浜中企画

浜中 賢司（昭和44年卒）

〒193-0801 八王子市川口町 3411
電話：042(654)4325 FAX：042(654)6128
mail：hamanaka@tokyo.email.ne.jp

墓所のご案内いたします◇心を込めてお作りします

（有）渡辺石材店

専務取締役 氏家 雅子（旧姓 渡辺） 昭和51年卒
創業90余年 母校近く、母娘共に南高の卒業生です！

〒192-0046 八王子市明神町1-25-1
電話：042-643-0213 FAX：042-643-8933
www.watanabesekizai.co.jp

コンピュータソフト開発＆運用

（有）ライズ

代表取締役 中村 晋也（昭和53年卒）

〒192-0066 八王子市本町30-6（N-Twoビル3F）
電話：042-620-5425 FAX：042-689-4149

５月15日の「平成28年度あかね会定期総会」にご出席ください

同窓会「あかね会」は、毎年、５月の第３日曜日に定期総会を開催しています。（あかね会規約第７条）

今年は、初めての中等教育学校卒業生を会員に迎え、総会が開かれます。

同窓会総会は、現在の母校を知る機会であり、また、共に学んだ仲間との再会、年齢を隔てた先輩や後輩の新たな出会いの場でもあります。同級生、クラブ活動を共にした仲間等と誘い合ってご参加ください。

平成28年度あかね会定期総会

【日時】平成28年５月15日（日）11時～15時
【場所】八王子ホテルニューグランド
八王子市大和田町6-1-6
☏ 042-645-0038
【懇親会費】５千円（当日徴収します）

【プログラム】

総会　11時～12時

平成27年度事業報告・決算
平成28年度事業計画・予算

講演会　12時～13時

講師　**黒須 隆一　氏**（昭和35年卒業）
（八王子・台湾友好交流協会理事長、
あかね会顧問、前八王子市長）
演題　「台湾における日本人の足跡」

懇親会　13時～15時

昼食、懇談、新入会員の紹介等
【申込方法】常任委員を通じてお申込みください。
又は、下記へ５月８日(日)までにご連絡ください。
【申込先】　田中ミホ　☏ 042-646-1155
溝口　猛　☏ 090-6489-5939

「あかね会活動協力金」のお願い

この度のあかね会広報誌「みなみたま」第７号の発行は、卒業生会員（３万名弱）のうち、物故者、消息不明の方を除く１万８千名の方にお送りしました。

一昨年まで、広報誌の送料の協賛として「広報協力金」をお願いしてまいりましたが、昨年度から「あかね会活動協力金」として、広く同窓会活動全般の協賛を目的に、会員の皆さまにご協力をお願いすることとしました。

「あかね会活動協力金」は１口千円とし、従来の広報発送費だけでなく、母校を支援する資金として幅広く活用させていただきます。

ご協力はあくまでも任意です。お志のある方は、可能な範囲でご協力いただきますようお願いします。

住所変更の際には、あかね会にご一報ください

毎年、広報誌を発行しますと、多数の戻り便が発生しています。会員の皆様にご住所やお名前の変更がありましたときは、あかね会あてにご連絡ください。

【メール】meibo@akanekai.org
【郵　便】〒192-8562　八王子市明神町４-20-１
都立南多摩中等教育学校内　あかね会名簿担当あて

編集後記

昨年３月に最後の卒業生を送り出し、南多摩高校は閉校した。そして、今年から南多摩中等教育学校の卒業生が同窓会のメンバーに加わり、同窓会も新たなスタートを切る。会報表紙のタイトルに入れていた校章も南高から中等教育学校の校章に入れ替えたが、比較しないと気が付かないかもしれない。校名の文字は高女、南高、そして南多摩と変わったが、背景の八角蓮の葉を模った枠の中に桑の葉のデザインは創設当時から変わっていない。100年を超える伝統が引き継がれている象徴でもある。

本号の会報の編集には、今年の卒業生にも協力いただいた。表紙の正月の箱根駅伝で活躍した高木さんへのインタビュー記事は、今年卒業の足立原さんにお願いした。２年前の卒業生は、成人の仲間入りを機に学年全体の同窓会を行って「自分たちが集うところが南高になる。」と南高生の絆の強さを伝えてくれた。同窓会活動への若い卒業生の協力と参加で、会報も新たな一歩を踏み出した。こうした機運が継続し、同窓会の活動がさらに活発化して行くこと期待したい。（菱山）